

3 - 17 東京湾におけるマルチチャンネル反射法音波探査(2) Multichannel Seismic Reflection Profiling in the Tokyo Bay (2)

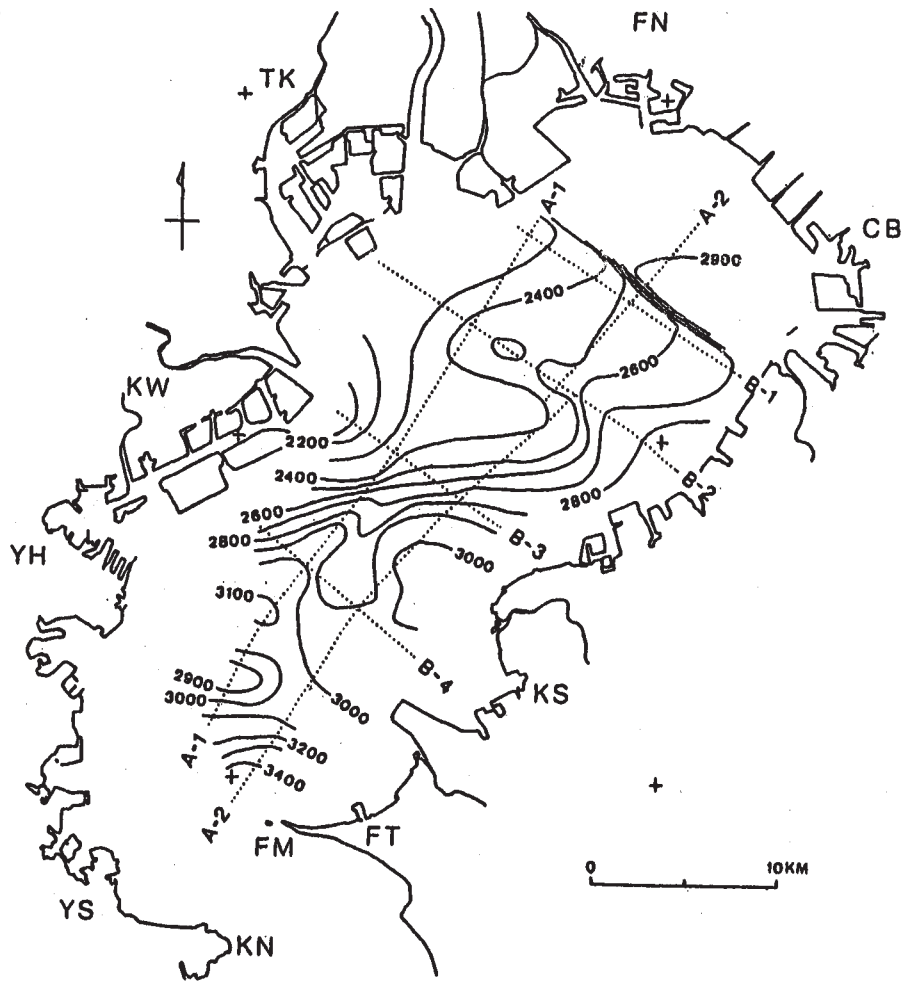
海上保安庁水路部
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

東京湾におけるマルチチャンネル反射法音波探査記録断面図¹⁾をもとに行った、地質構造解析結果について報告する。

- (1) 関東平野の先新第三系基盤上面と考えられる強い反射面が記録され、その深さは海面下2～3.4 kmであった。この反射面の等深度線図(第1図)をみると、多摩川河口沖で2100mと最も浅く、東・南に順次深くなり、南端の富津岬沖で最も深くなる。千葉沖で等深度線が密なところは、(3)の断層による影響である。
- (2) 上記反射面を覆う堆積層は厚く、新第三系～第四系と考えられる。この堆積層のなかで下位層は南ほど厚く、上位層は北東ほど厚く堆積している。第2図は、上位層の中のTC層上面の等深度線図であり、上位層(TA層+TB層)の厚さを示している。
- (3) A-2測線には、(1)の反射面を420m変位させる北落ちの断層が認められた(第3図のF1)。場所は湾奥部の千葉沖で、他の測線に認められないことから、断層の走向はNW-SE方向と推定される。この断層上のTD層は撓曲状に変形しているが、TC層以上にはほとんど影響を及ぼしていない。従って、この断層は、TC層堆積期以後ほとんど活動していないと考えられる。
- (4) B-2測線以南には、おもにTD層をわずかに変位させる正断層群が認められた(第3図のf)。また中の瀬付近には、走向がほぼ東西と考えられる褶曲構造が認められた。

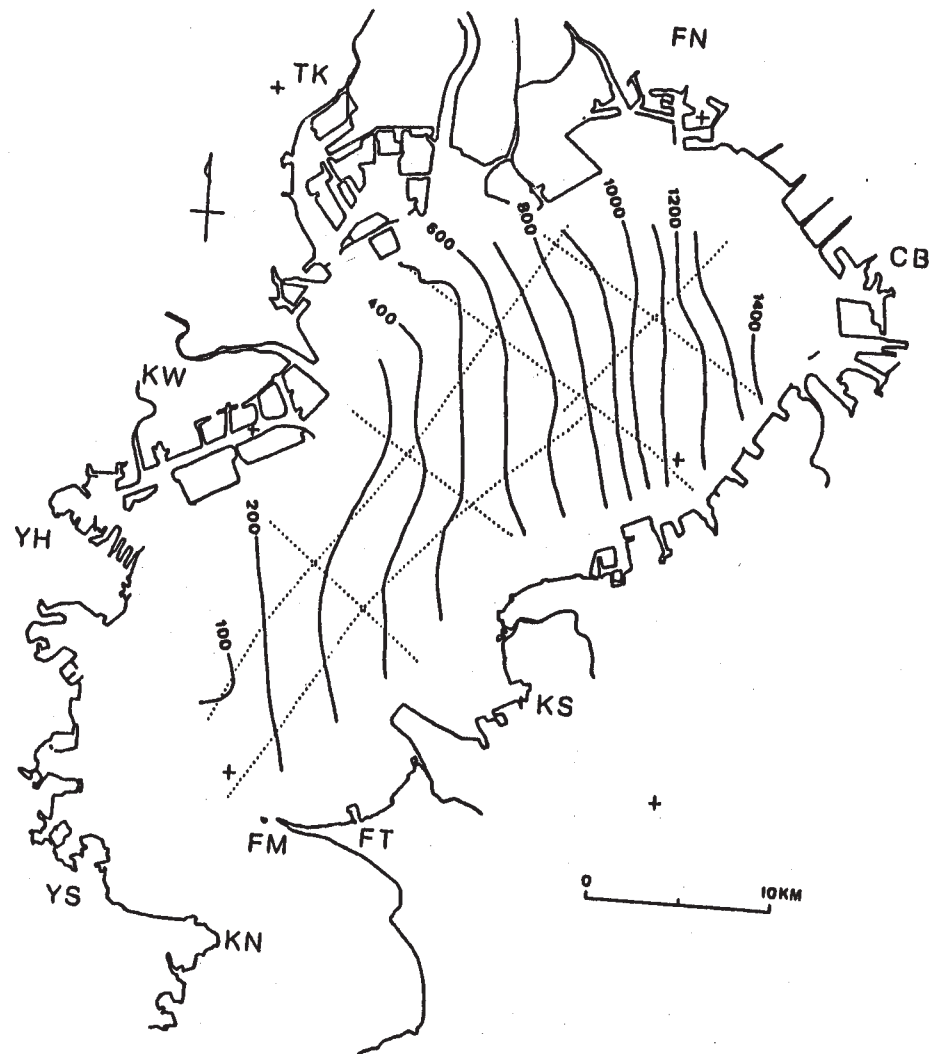
参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部：東京湾におけるマルチチャンネル反射法音波探査(1)，連絡会報，30(1983)，115 - 118.



第1図 先新第三系基盤と考えられるTF層上面の等深度線図。
等深線間隔 100 m

Fig. 1 Structural contours on the top of TF Group. TF Group corresponds to pre-Neogene basement. Contour interval 100m.

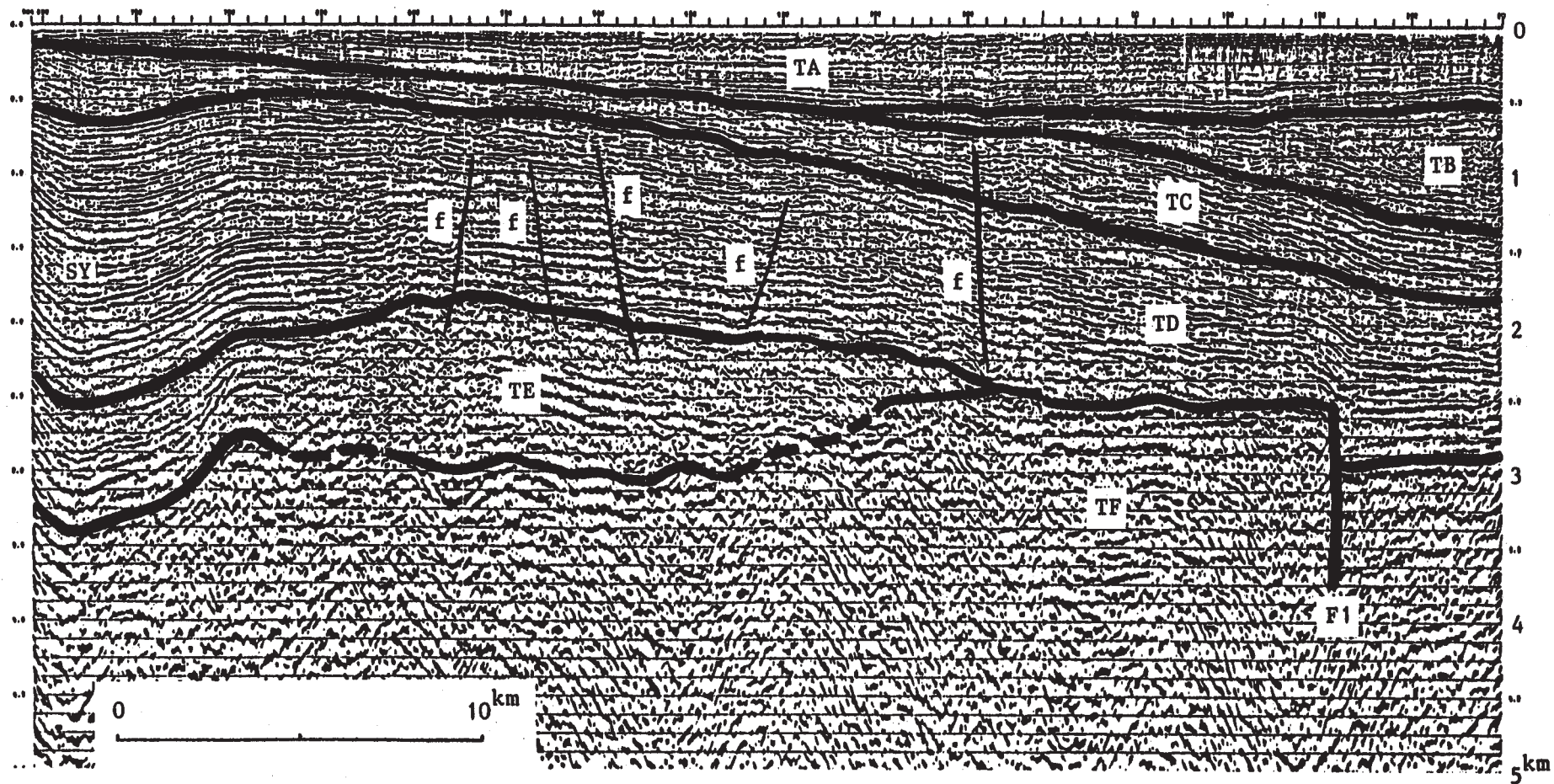


第2図 TC層上面の等深度線図。等深線間隔 100m

Fig. 2 Structural contours on the top of TC Group. Contour interval 100m.

富津岬側

千葉側



第3図 A - 2測線 (深度変換断面図) の解釈図

Fig. 3 Line drawing on the migrated depth section along line A-2.